



本資料は、サノフィ(フランス、パリ)が2018年4月27日(現地時間)に発表したプレスリリースを日本語に翻訳・要約し、5月10日に配信するものです。本資料の正式言語はフランス語・英語であり、その内容および解釈については両言語が優先します。日本語で承認されている主な製品名および一般名についてはカタカナ表記をしています。

## 2018年度第1四半期の1株当たり事業純利益<sup>(1)</sup>、 CER ベースで1.4%増

	2018年度 第1四半期	前年同期比	前年同期比 (CER)
IFRS 純売上高(為替調整前)	€7,898m	-8.7%	-0.4%
IFRS 純利益(為替調整前)	€1,016m	-82.2% <sup>(2)</sup>	-
IFRS 1株当たり純利益(為替調整前)	€0.81	-82.0% <sup>(2)</sup>	-
事業純利益 <sup>(1)</sup>	€1,598m	-10.7%	+0.4%
1株当たり事業純利益 <sup>(1)</sup>	€1.28	-9.9%	+1.4%

**2018年度第1四半期は、米国のランタス<sup>®</sup>および sevelamer の特許権満了によってスペシャルティケアの堅調な売上高が相殺されたことを反映**

- 純売上高は、調整前 8.7%減(CER ベースで 0.4%減<sup>(3)</sup>、CS/CER ベース<sup>(4)</sup>で 1.1%減)の 78 億 9,800 万ユーロ
- 新しい免疫製品群の貢献を受けて、サノフィジェンザイムが堅調な売上高(16.2%増<sup>(5)</sup>)を達成
- ワクチンの売上高(0.9%減)は、予期されていた中国での Pentaxim<sup>®</sup>の供給制限によって欧州の堅調な業績が相殺されたことを反映
- コンシューマー・ヘルスケア(CHC)の売上高は、新興市場<sup>(6)</sup>の2桁成長によって支えられ、2.0%増
- 糖尿病および循環器 GBU の売上高は 15.7%減、グローバル糖尿病製品群の売上高は 10.0%減
- 新興市場の売上高<sup>(6)</sup>は、中国および中南米の2桁成長によって牽引され、8.3%増

### 2018年度の見通しを再確認

- 2018年度第1四半期の1株当たり事業純利益<sup>(1)</sup>は、CER ベースで1.4%増の1.28ユーロ
- 2018年度第1四半期のIFRS 1株当たり純利益は、2017年の動物用医薬品事業の売却益により、82.0%減の0.81ユーロ
- 重大な予期せぬ要因が発生しない限り、2018年度通年の1株当たり事業純利益をCER ベース<sup>(7)</sup>で2%~5%増と予測。2018年4月の平均レートを適用すると、2018年度通年の1株当たり事業純利益への為替レート変動の影響は、-7%程度と予測

### 2019年半ばに完了見込みの15億ユーロの自社株買い戻しプログラム<sup>(8)</sup>を発表

希少血液疾患製品群を追加し、サノフィはスペシャルティケア領域におけるリーダーシップを強化

- Bioverativ 社の買収を完了し、3月9日より同社の業績を連結
- 血友病の新規治療法としてRNAiである fitusiran の第III相 ATLAS プログラムにおいて、最初の患者に投与開始
- Ablynx 社の買収<sup>(9)</sup>により、aTTP<sup>(10)</sup>(欧州で承認申請を提出)に対する caplacizumab と革新的な Nanobody<sup>®</sup>プラットフォームを追加

### 研究開発における革新を維持

- ODYSSEY OUTCOMES 試験において、プララエント<sup>®</sup>が高リスク患者の心血管イベントのリスクを有意に減少させ、死亡率低下との関連が示された
- 成人および思春期の中等症から重症の気管支喘息に対するデュピクセント<sup>®</sup>の生物学的製剤承認一部変更申請(sBLA)を米国、日本、欧州で提出
- 欧州で転移性皮膚扁平上皮がん(CSCC)に関して cemiplimab の承認申請を提出
- 米国およびEUで1型糖尿病に関して sotagliflozin の承認申請を提出

## サノフィ最高経営責任者(CEO)のオリヴィエ・ブランディケールのコメント:

「第1四半期に、サノフィのグローバル全体の業績と規律ある費用管理によって、米国でのランタス®および sevelamer の特許権満了による影響に適切に対処することができました。さらに、Bioverativ 社を連結し、Ablynx 社を買収したことにより、世界的な希少血液疾患領域における基礎を築き、スペシャルティケア領域のリーダーとしての地位をさらに強化しています。最も重要な点として、2018年下半期に予想される新たな成長時期に向けて、優先事項の遂行に取り組んでいきます」

(1) 当カンパニーの業績をわかりやすく示すため、事業純利益計算書について説明します。事業純利益は、GAAP(一般会計原則)に調整を加えた財務指標です(定義は付録8(英語版プレスリリース)を参照)。2018年度第1四半期の連結損益計算書については付録3(英語版プレスリリース)に、IFRS純利益(為替調整前)から事業純利益への調整については付録4(英語版プレスリリース)に記載しています。(2) 動物用医薬品事業の売却益を除くと、IFRS純利益は19.9%減、IFRS1株当たり利益は19.8%減。(3) 特に指定のない限り、純売上高の増加は為替レート変動の影響を除いて(CER)算出(付録8(英語版プレスリリース)を参照)(4) CS(constant structure):Bioverativ社の買収について調整を実施。(5) Bioverativ社の買収について調整を実施:CER/CSベースで11.2%増。(6) 定義は3ページを参照(7) 2017年度の1株当たり事業純利益は5.52ユーロ(8) 2018年5月2日の株式総会でサノフィの自社株買い戻しの許可が更新されることを条件とする。(9) 買収の完了を条件とする。(10) 後天性血栓性血小板減少性紫斑病

## 2018年度第1四半期のサノフィ売上高

特に指定のない限り、当プレスリリースの売上高の変動率は為替レート変動の影響を排除して<sup>(1)</sup>算出しています。

2018年度第1四半期におけるカンパニー売上高は、調整前ベースで8.7%減の78億9,800万ユーロでした。米ドルに加え、ブラジル・リラ、中国元、日本円、およびアルゼンチン・ペソの為替レートの変動により、8.3ポイントの悪影響を受けました。カンパニー売上高は、CERベースで微減(0.4%減)しました。

## グローバルビジネスユニット

以下の表は、グローバルビジネスユニット(GBU)別の売上高をまとめたものです。新興市場におけるスペシャルティケア、糖尿病および循環器の売上高は、ジェネラルメディシンおよび新興市場GBUに計上されます。

GBU別純売上高 (単位:100万ユーロ)	2018年度 第1四半期	前年同期比 (CER)
サノフィジェンザイム(スペシャルティケア) <sup>(a)</sup>	1,460	+16.2%
糖尿病および循環器 <sup>(a)</sup>	1,088	-15.7%
ジェネラルメディシンおよび新興市場 <sup>(b)</sup>	3,401	-1.5%
<b>医薬品合計</b>	<b>5,949</b>	<b>-0.9%</b>
コンシューマー・ヘルスケア(CHC)	1,238	+2.0%
サノフィパスツール(ワクチン)	711	-0.9%
<b>純売上高合計</b>	<b>7,898</b>	<b>-0.4%</b>

(a) 新興市場の売上高は含まず一定義は3ページを参照 (b) 糖尿病および循環器とスペシャルティケアの新興市場の売上高を含む

## グローバル製品群

以下の表は、2018年度第1四半期のグローバル製品群別売上高をまとめたものであり、比較しやすいように新興市場における売上高を含めています。付録1(英語版プレスリリース)に、GBU別および製品群別の調整値をまとめました。

製品群別純売上高 (単位:100万ユーロ)	2018年度 第1四半期	前年同期比 (CER)	先進国市場	前年同期比 (CER)	新興市場	前年同期比 (CER)
スペシャルティケア	1,710	+16.3%	1,460	+16.2%	250	+16.9%
糖尿病および循環器	1,484	-8.7%	1,088	-15.7%	396	+17.9%
エスタブリッシュ処方製品	2,320	-6.4%	1,327	-16.1%	993	+9.7%
コンシューマー・ヘルスケア(CHC)	1,238	+2.0%	829	-3.5%	409	+14.4%
ジェネリック医薬品	435	+0.9%	256	-0.8%	179	+3.0%
ワクチン	711	-0.9%	471	+10.9%	240	-18.4%
<b>純売上高合計</b>	<b>7,898</b>	<b>-0.4%</b>	<b>5,431</b>	<b>-4.1%</b>	<b>2,467</b>	<b>+8.3%</b>

## 地域別カンパニー売上高

純売上高 (単位:100 万ユーロ)	2018 年度 第 1 四半期	前年同期比 (CER)
米国	2,198	-8.2%
新興市場 <sup>(a)</sup>	2,467	+8.3%
－中南米	650	+13.6%
－アジア <sup>(b)</sup>	1,000	+9.3%
－アフリカおよび中東	491	-0.7%
－ユーラシア <sup>(c)</sup>	290	+11.0%
欧州 <sup>(d)</sup>	2,416	+0.5%
その他の国 <sup>(e)</sup>	817	-3.4%
－日本	445	-7.6%
<b>サノフィ売上高合計</b>	<b>7,898</b>	<b>-0.4%</b>

(a) 米国、カナダ、西欧・東欧諸国(ユーラシアを除く)、日本、韓国、オーストラリア、ニュージーランド、プエルトリコを除く各国

(b) インド、バングラデシュ、スリランカ

(c) ロシア、ウクライナ、ジョージア、ベラルーシ、アルメニア、およびトルコ

(d) 西欧・東欧諸国(ユーラシアを除く)

(e) 日本、韓国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、プエルトリコ

第 1 四半期における米国の売上高は、デュピクセント®の業績と Elocbate®および Alprolix®の売上高の連結によって、糖尿病の売上高減少(26.6%減)および sevelamer のジェネリック医薬品との競合の影響が部分的に相殺され、8.2%減の 21 億 9,800 万ユーロとなりました。

第 1 四半期における新興市場の売上高は、エスタブリッシュ処方製品(9.7%増)、糖尿病(17.7%増)、コンシューマー・ヘルスケア(CHC)(14.4%増)、希少疾患(20.8%増)製品群に牽引され、8.3%増の 24 億 6,700 万ユーロとなりました。第 1 四半期におけるアジアの売上高は、現地での Pentaxim®の供給制限にもかかわらず、中国が好業績(13.6%増の 6 億 4,100 万ユーロ)を収めたことを反映し、9.3%増の 10 億ユーロとなりました。第 1 四半期における中南米の売上高は、ブラジル(12.2%増の 3 億 100 万ユーロ)、アルゼンチン、メキシコに牽引され、13.6%増の 6 億 5,000 万ユーロとなりました。第 1 四半期における CHC およびワクチンの業績は特に中南米で堅調であり、売上高はそれぞれ 31.3%増、22.5%増でした。第 1 四半期におけるアフリカおよび中東の売上高は、0.7%減(モロッコの Maphar 社を除くと 4.0%増)の 4 億 9,100 万ユーロとなりました。組織の簡素化を図る戦略目標の一環として、サノフィは 2017 年度第 2 四半期末に Maphar 社の経営権を売却したため、現在では売上高を連結していません。第 1 四半期におけるユーラシア地域の売上高は、トルコの大幅成長に支えられ、11.0%増の 2 億 9,000 万ユーロとなりました。第 1 四半期におけるロシアの売上高は、4.7%増の 1 億 3,900 万ユーロでした。

第 1 四半期における欧州の売上高は、主にワクチン(38.0%増)と希少疾患(7.4%増)によってエスタブリッシュ処方製品(4.3%減)と CHC(5.0%減)の売上高減少が相殺され、0.5%増の 24 億 1,600 万ユーロとなりました。

第 1 四半期における日本の売上高は、プラビックス®におけるジェネリック医薬品との競合と Aprovel®およびアレグラ®の売上高減少の影響を受け、7.6%減の 4 億 4,500 万ユーロとなりました。

## 今後の見通しに関する記述

当プレスリリースには、1995 年民間有価証券訴訟改正法(修正を含む)でいう「今後の見通しに関する記述」が含まれています。今後の見通しに関する記述とは、歴史的事実を述べる記述ではありません。これらの記述には、製品の販売その他の可能性や製品から将来的に収益を得られる可能性に関する予測と見積もりが含まれます。一般的に、今後の見通しに関する記述は、「予想」、「期待」、「見込み」、「予定」、「予測」、「計画」などの表現によって識別されます。サノフィの経営陣はそのような今後の見通しに関する記述に反映された予想を妥当と考えますが、投資家は今後の見通しに関する情報と記述がさまざまなリスクと不確実性の影響を受けやすく、それらの多くが予測困難であり、通常サノフィが制御できず、そのために実際の結果と進展が、今後の見通しに関する情報と記述の中で表現された、暗示された、または予測されたものとは実質的に異なる場合があることに注意してください。そのようなリスクと不確実性には、製品の利用可能性や商業的可能性に影響を及ぼす予期せぬ規制措置、遅延、あるいは政府規制、製品が商業的に成功するという保証の欠如、市販後を含む製品に関連する今後の臨床データおよび既存の臨床データの解析を含め、研究開発に付随する不確実性、予期せぬ安全性、品質、または製造の問題、競合全般、知的財産権やそれに関連した将来の訴訟、ならびにそのような訴訟の最終結果に関連するリスク、不安定な経済情勢、ならびにサノフィの 2017 年 12 月 31 日終了事業年度フォーム 20-F 年次報告書の「リスク要因」および「今後の見通しに関する記述」項目を含む、サノフィが作成した SEC および AMF に対する公の届け出の中で議論されているかまたは特定されているリスクが含まれます。サノフィは、適用法によって義務付けられている場合を除き、今後の見通しに関する情報または記述の更新または見直しを行う義務を負うものではありません。